

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立豊里南小学校学校協議会

1 総括についての評価

「創立 40 周年を祝う会」開催にあたり、児童中心の内容にしたことで、取り組みを通して、地域や学校への愛着を深めるとともに児童の自主性を伸ばすことができた。児童の成長や地域愛が伝わる感動的な会となった。

経年調査の結果については、大阪市平均を下回るものが多かったが、経年で見ると大阪市平均に近づいており、学力向上の取り組みが成果となり表れつつある。学年や教科によっては大阪市平均を上回るものもある。普段の学習や学校生活全体に主体的に取り組む姿勢が学力の結果にも表れていると感じられる。

I C T を積極的に活用し自律学習や探究的な学習を推進することで、家庭学習に取り組む習慣が定着しつつある。しかし、スマートフォンやゲームを使用する時間が長いことや睡眠時間等基本的な生活習慣が身につけていない児童がまだまだ多い実態があり、改善のために啓発を継続していく必要がある。

全体を通しての総括は概ね妥当である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合は 87% であったため、指標に達することができなかったが、昨年度の 86% は上回ることはできた。不登校児童の現状の共通理解を図るためチームや学校全体での会議を定期的に設置したり、電話対応や家庭訪問等の登校支援を行ったりすることで、遅刻する児童の数も減少し、学校生活に対して前向きな児童が増えたのではないかと考える。

「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合は 83% であったため、指標を大きく上回った。児童が主体的に考え判断し実行するサイクルを繰り返す場面を多く設定したこと、適切なタイミングで教員が認め励まし続けたことが大きな要因であると考えられる。児童が自信をもつ経験や指導を今後も継続してほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「学校の宿題以外に自分で課題を決めて学習に取り組むことができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、目標 50% に対し前期 58% 後期 53% であり、昨年度の 37% を大きく上回った。「全くしない」と回答した児童の割合は、目標 20% 以下に対し前期 21% 後期 17% と昨年度の 28% から減少傾向にある。

今年度より生活科・総合的な学習の時間を「探究」として学びのサイクルを意識して指導することで、「課題の設定」が習慣としてついてきたこと、自律学習を実施することで、児童が自分の課題に向き合う力がついてきたことが大きな原因と考える。児童の自主性や探究心を伸ばす取り組みを今後も継続してほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を年間授業日の80%以上にするという年度目標に対して、平均93%の活用率であり目標を上回ることができた。授業においてロイロノートや生成AIを活用する等、多岐にわたり学習端末を取り入れた教育活動を行うことにより、学習用具として文房具の一つとして活用することができた。

週に1日のゆとりの日や長期休業中の閉庁日の設定については実現することができた。遅くまで学校に残って仕事をする教員は減っているが、PCの持ち帰りはあまり減っていないので、根本的な解決にはなっていない。

個別最適な学習のため、学習者用端末の有効な活用を継続してほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

最終評価の結果を見ると、今年度の方策について十分に協議され、次年度への改善点や継続して取り組むことが示されている。教職員が学校の課題を把握・分析し、ベクトルを合わせて効果的な方策を検討しながら指導にあたっていることで、成果があがりつつあると感じる。普段のあいさつや行事での交流から、児童が朗らかに成長できていることを感じる。今後も、児童ひとりひとりの課題に応じたよりきめ細かな指導を継続してほしい。また、保護者・地域と連携して教育活動を行うことで、さらに成果をあげてほしい。